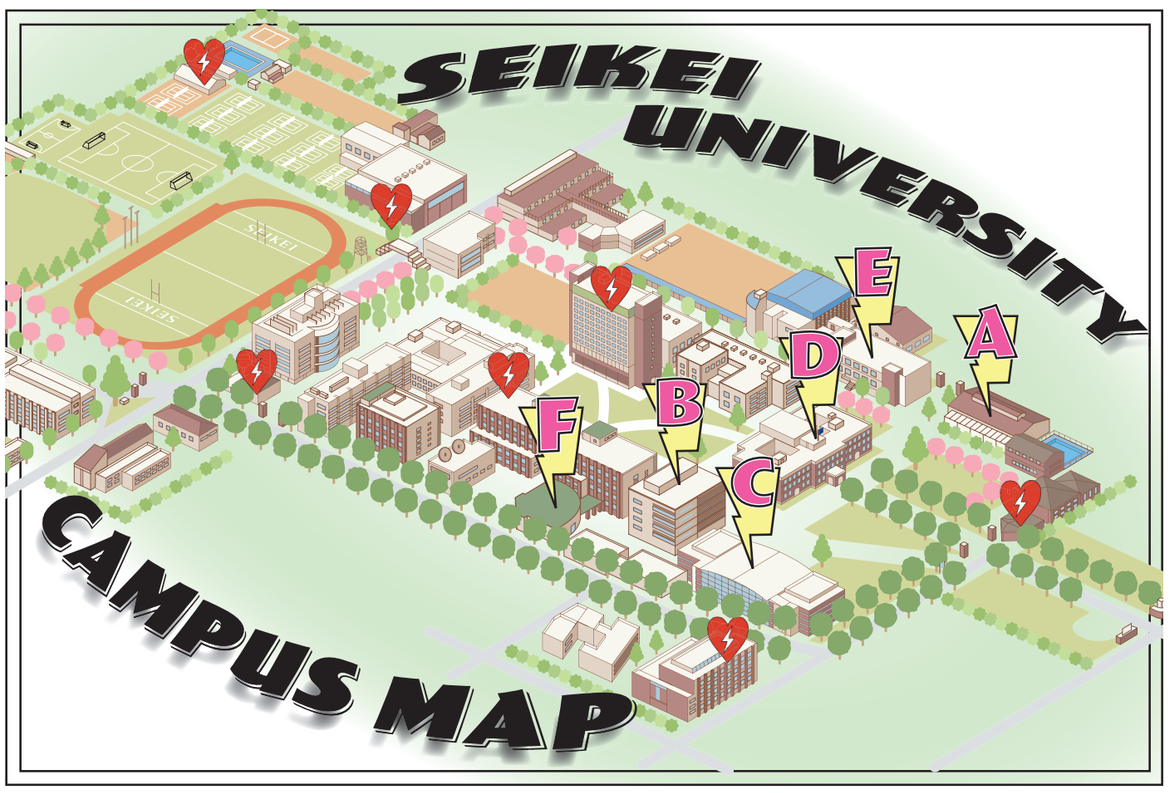
ようこそ成蹊大学へ！ 新入生応援案内

ご入学おめでとうございます！食堂をはじめとした各施設の紹介や、有事の際の AED の位置など、新入生にとって役立つ情報を集めました。これを読んで、楽しく充実したキャンパスライフを送りましょう！



- A トラスコンガーデン
- B ６号館
- C 情報図書館
- D 本館
- E 学生会館
- F ４号館
- AED 設置場所

知っておこう　構内施設

トラスコンガーデン

多くの学生でにぎわうトラスコンガーデンは「トラコン」という愛称で親しまれている。テーブル席とカウンター席が合わせて 307 席設けられており、利便性が高い。授業期間中の開放時間は平日が午前７時～午後７時、土曜日は午前７時～午後５時。館内のファミリーマートは午前８時に開店する。他店舗と同様の商品を購入できるほか、営業時間内には電子レンジも使用可能だ。また、スマートフォン用モバイルバッテリーのシェアリングサービス「ChargeSPOT」が導入されている。

館内南側にある掲示板では、学内イベントや説明会に関する情報をいつでも確認することができる。トラコンを訪れた際は目を通してほしい。

（岡本和音）

６号館

地上６階、地下２階建ての６号館。地下１階に広がる「カフェ＆ホール COMMichi」はカフェを併設した多目的ホールで、パンや日替わり弁当などが購入できる。壁に設置されている大画面ディスプレイも同ホールの特徴だ。昨年 10 月に開催されたラグビーW杯日本大会の応援イベントでも使われ、画面に映る選手の活躍に来場者が熱狂した。

授業や履修登録をはじめとする業務を行うのが、１階にある教務部だ。カウンターは、共通、経済・経営学部、理工学部、法学部、文学部の５つに分かれている。本年度の新入生には新しいカリキュラムが適用される。不明な点があれば、各学部カウンターで質問すると良いだろう。共通カウンターの前には証明書自動発行機が備え付けられており、在学証明書や成績証明書、学割などの発行が可能だ。なお、この証明書自動発行機は、学内に置かれた他の２台よりもさまざまな書類を発行することができる。

２階には教職課程センターと非常勤講師控室があり、３～５階に教室、６階には教職員専用の会議室が設けられている。加えて、グループ学習のできる「コミュニケーションラボ」が３階と５階に大小２部屋ずつ並ぶ。大部屋には電子黒板が設置されているため、ゼミ発表の練習場所としても活用できる。使用する際は教務部への申請が必要だ。

（大浜百花）

情報図書館

ガラス張りの外観が目を引く情報図書館の開架書架には約 55 万冊の図書が並ぶ。学修施設としても充実し、館内には「プラネット」と呼ばれる球体型のグループ閲覧室がある。また、全ての階に個室閲覧室「クリスタルキャレル」が設けられている。レポート作成やテスト勉強に集中したい人には最適だ。ただし、学期末試験期間は特に利用者が多く、満席になることもある。１階の「リフレッシュエリア」は館内で唯一食事ができるスペースだ。

情報図書館は、学生の利用促進のためにいろいろなイベントを開催している。毎年秋に実施する「ブックハンティング」では、学生がジュンク堂書店吉祥寺店で選んだ本を、後日手作りのポップと共に館内に展示。さらに、昨年秋には「図書館福袋」という企画も行われた。福袋の中には、袋ごとに設定されたテーマに沿った本が数冊入っている。このように、学生に読書を気軽に楽しんでもらうための工夫が常日頃からなされている。また、新刊の収集にも力を注ぎ、年間約１万 6000 冊の本を新たに収蔵。１階にある新刊コーナーは毎週水曜日に更新される。定期的にチェックしてみてはいかがだろうか。

情報図書館のホームページでは、利用案内に関する動画を学生に向けて公開している。貸出方法や、各種施設の利用方法などを詳しく知ることが可能だ。この記事に加えて動画を活用し、一日も早く図書館を使いこなしてほしい。（高梨翼）

本　館

唯一の全面れんがタイル貼りである建物が、本学の象徴とされる本館だ。1924 年の建設以降、構内で最も長い歴史を持つ。2008 年には大規模な改修工事が行われたものの、ほとんど建築当時の姿を保ち続けている。また、テレビドラマや映画の撮影場所に使われるため、学外でも認知度が高い。

本館には、本学を支える部署が多数置かれている。中でも学生が頻繁に利用するのは、１階西側にある学生部だ。ここでは、奨学金に関する手続き、学生証の再発行や遺失物の管理、部活動をはじめとした課外活動についての手続きなどを行っている。１階北側にはボランティア支援センターがあり、ボランティアについての情報収集や、参加申し込みを行うことができる。ボランティアに興味のある人は足を運んでみてほしい。

充実した学生生活を送る上で、さまざまな目的を持って訪れることになる本館。各部署の業務内容を把握し、有効に活用できるようにしたい。

（茂木佑太朗）

学生会館

学生会館は、トラスコンガーデンの北側にある地上３階、地下１階建ての施設だ。ここでは、教科書を含む書籍や文房具などを扱う紀伊國屋書店と、カットサロンが営業している。さらに証明写真機、建物前の ATM 等の学生生活を支える設備もそろう。

地下には音楽練習室が設けられており、主に音楽系団体が使用している。また、３階には学生ボランティア本部 Uni.、欅祭本部、新聞会、体育会本部、文化会本部の部室が並ぶ。活動に興味を持った人は一度訪れることを勧める。

そして、学生生活を送る上で欠かせないのが学生食堂だ。館内には３つの食堂が存在する。１階にあるのは４店舗が集まる第一学生食堂。うどん、ラーメン、鉄板料理、定食類を提供している。２階には４月より新たにオープンする出来たて中華の「桃李」、３階には丼ぶり専門店「TORIKO」が店を構える。各食堂を回り、自分好みの店を見つけてみてはどうだろうか。

（勝見季紘）

広々とした第一学生食堂

４号館

６号館の北西に位置する構内最大のホールが４号館だ。木を基調とした温かみのある内装が施されている。プロジェクターをはじめとする機材も設置。そのため、履修者が多い講義だけでなく、本学主催の講演会やシンポジウムの会場にもなる。さらに毎年 11 月に開催される欅祭では、芸能人を招いたトークショーが開かれるほか、課外活動団体がダンスや演劇などのパフォーマンスを行う。

多目的ホールとして、日頃からさまざまな場面で使われている４号館。各種説明会の開催場所でもあるため、迷わず行けるようにしておこう。

（畠山悠奈）

国際交流の第一歩　バディシステム

本学には国際交流のできる制度がいくつか設けられている。今回は、その中の一つであるバディシステムについて紹介したい。バディとは、来日した協定留学生の生活を支えるボランティアのことだ。語学力に関する条件がないにもかかわらず「難しそうだから」という理由で登録をためらう学生が多い。そこで、バディとして活動している中嶋久侑さん（経済経営２）に話を聞いた。

本学では、留学生１人に対して５人前後のバディが担当に就く形式を採っている。主に空港での出迎えや住民登録の手続き、銀行口座開設のサポートを行う。また、ウェルカムパーティーやバスツアーのような国際交流イベントの企画・運営も担っている。

中嶋さんは、昨年度の後期からバディの活動を始めた。ニュージーランドへ留学した際に現地のバディに支えてもらい、自分も同じことをしたいと考えた。初めは留学生に日本語と英語のどちらを使えばよいか迷ったが、現在はできるだけ日本語で話すようにしているそうだ。中嶋さんは「留学生は日本語の習得を目的に来ている。それを忘れずに会話することが重要だ」と考えを述べた。

バディシステムではチームで助け合うことができ、日本と異なる環境に順応する必要もない。そのため、留学よりも気軽に取り組むことができる。また、熱心に勉強する留学生の影響を受け、自身の留学を決める人もいるという。本年度前期の活動への登録はすでに締め切られているが、後期の募集は今後行われる予定だ。国際交流の第一歩として、同システムを活用すると良いだろう。

（大浜百花）

活動を振り返る中嶋さん

令和に続く　中村春二の教育観

本学には２体の中村春二胸像がある。１体は情報図書館の入口付近に、中村の 13 回忌と学園創立 25 周年を機に建てられた。もう１体はそのレプリカで本館１階に位置する。これらの胸像を見て、本学園の創立者である中村の存在を知った人もいるだろう。とはいえ、彼の人物像や功績について理解している人は少ない。成蹊学園史料館の近藤茂グループ長に話を伺い、中村の一生に迫る。

1877 年３月 31 日に東京・神田猿楽町で生まれた中村。幼少期から英才教育を受け、尋常中学時代には友人から「聖人」と呼ばれるほどの模範生だった。この頃、生涯にわたる友となる今村繁三と岩崎小弥太に出会う。後に本学園の理事を務める彼らは、教育に人生をささげた中村を経済面でも支え続けた。

中村が教育者を志したのは、東京帝国大学（現在の東京大学）在学時だ。在学中、曹洞宗第一中学林（現在の世田谷学園）の講師となった彼は、貧困によって進学できない生徒がいることや、画一的な教育に憤りを感じていた。大学卒業後の 1906 年に学生塾を開き、翌年「成蹊園」と命名。1912 年から 1917 年にかけては、個性の尊重や少人数教育などを理念とした成蹊実務学校をはじめ、５つの学校を池袋に開校した。中村の教育活動は全国へと拡大し、大正自由教育運動の中核を担ったという。しかし、これらの活動で多忙を極めた彼は体調を崩しがちになる。成蹊学園の吉祥寺移転が目前に迫った 1924 年２月 21 日、46 歳という若さで亡くなった。

成蹊大学の開学は、中村の没後 25 年のこと。背景には６・３・３・４制への学制改革があった。少人数教育は大学にも踏襲され 1950 年には１科目 15 人のゼミナール制を採用。現在でも全学部でゼミ演習が行われている。彼の教育方針は、令和になった今でも脈々と受け継がれているのだ。

（高梨翼）

ハラスメント　理解と相談が重要

誰もが被害者にも加害者にもなり得るハラスメント。これは、多くの人と関わる大学生活において意識しなければならないものだ。私たちはハラスメントとどのように向き合えばよいのだろうか。

ハラスメントを受けたときには、はっきりと拒絶の意思表示をすると行為が止むこともある。だが、できるだけ早く相手と距離を置くのが望ましい。一方、個人での解決が難しいケースもある。そのような場合には抱え込まず、信頼できる人に相談するのが有効だ。解決策が見つかりやすくなるほか、他者に打ち明けること自体に心理的負担を緩和させる効果がある。

自覚がないまま加害者となってしまう事例も少なくない。言葉の受け取り方は人によって異なることに加え「誰に言われたか」によって受ける印象が変化するからだ。また、気持ちを正直に伝え合える関係を構築することも大切となる。とはいえ、上下関係がある場合にはこうした関係を築きにくい。コミュニケーションをする際は、より一層の配慮が必要になるだろう。

本学にはハラスメント専門の相談員がおり、電話かメールで申し込めば面談可能だ。成蹊学園ハラスメント防止委員会委員長の正岡和恵教授は「被害にあったときに相談の手段が分からなければ、一人で抱え込んでしまう。まずは相談室などの存在を知ってもらいたい」と語る。被害への適切な対処を行うだけでなく、加害者にならないために、ハラスメントとその支援についての理解が必要だ。

（勝見季紘）

成蹊大学新聞

発行人 倉田　滉也
編集人 岡本　和音
制作人 小西　優花
山田　拓斗

デスク
学　内　来間　れいな
特　集　夏目　大
スポーツ　内倉　拓海
文　化　小泉　唯斗

○ご意見・ご感想は seikeipress@gmail.com
○広告掲載のご依頼は seikeipress.ad4@gmail.com
までご連絡ください。

Editor's Voice

本紙４月号（No.321）には在学生はもちろんのこと、新入生向けの情報も多く掲載しました。学内面（１面）では、入試結果報告や法学部の新カリキュラムなど、本学の取り組みについて取材。より魅力のある大学を目指す改革「SEIKEI Brilliant 2020」が深く関連しています。特集とスポーツの合同面である２面では、ストレスとの向き合い方や体育会団体を取り上げました。４面の学生生活に関する記事と併せ、読者の方にとって役立つ情報をお伝えします。

今年は、より良い紙面制作の一環として読者アンケートを実施します。１面右上の QR コードから回答が可能です。本紙へのご感想や、今後の記事掲載希望などのご意見を頂ければ幸いです。

また、新型コロナウイルスが影響する中での今号の発行につきましては、関係者の方々に多くのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

（編集人　岡本和音）